

教科	科目	単位数	対象学年
国語	現代の国語・論理国語	2・1	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	① 語彙・用語など国語学習の基礎知識を身につける。 ② 説明的文章の読解を通して論理的思考を身につける。 ③ 文学的文章の読解を通して人間の真実に目を向ける。 ④ 短詩形文学の表現世界を味わう。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身につける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧に取り組み、復習をする習慣を身につける
使用教科書	『現代の国語』(筑摩書房) 『言語文化』(未定)
使用副教材	『グラン現代文』(尚文出版) 『即戦ゼミ 新国語問題総演習』(桐原書店) 『新国語便覧』(第一学習社)
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	○言語知識 ・現代文・古文・漢文に関する基礎知識（漢字の読み書き・語彙・用語・口語文法・文語文法）の確実な理解・運用の確認をする。 ○論説文・評論文 ・論理的文章の読解を通して、社会科学・人文科学・自然科学における知識の吸収と思考のあり方を学習する。 ・全体の論展開を把握し、文章の要旨、筆者の主張を読み解くことを学習する。 ・自分の意見、考えを論理的に表現することを学習する ○資料・データ・実用的文章・実践 ・情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考する力を養い、・実社会との関わりを考える ・論理的な文章や実用的な文章について、根本から問い直し、現代的な視点から論理的思考を育む

2 指導計画 * 「現代の国語」「言語文化」は教材を横断する場合がある

学年	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
高1	国語総合	評論	「ライエンスの根柢、アートの根柢」等																																				
		実践	「質問する力を育てよう」等																																				
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		実践																																					
		評論																																					
		評論																																					
		言語知識																																					
		資料・データ	「わかっていることないこと」等																																				

(「授業計画」は進度表で代用します)

教科	科目	単位数	対象学年
国語	言語文化	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	古文・漢文の読解が出来るようになり、古典の世界に興味を持つことが出来る。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることが基本という意識を持たせる。授業は説明を注意深く聞き、受け身ではなく主体的に取り組ませるよう工夫をする。家庭学習を習慣付けるためにも、授業の復習などの課題を適切に指示するよう心がける。
使用教科書	『言語文化』(筑摩書房) 『古典探求』(未定)
使用副教材	『やさしくくわしい古典文法』(尚文出版) 『力をつける古文ステップ2』(尚文出版) 『入試対策ベストセレックション古文単語325』(尚文出版) 『新明説漢文』(尚文出版) 『力をつける漢文習得編』(尚文出版) 自主教材
評価基準	小テスト・定期考查・課題提出・出欠状況などから総合的に評価する
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・古典単語の習得 ・古典文法の習得 ・古文（主に説話）の読解 <p>○中等部で学習した文法、語句の知識の定着を確認しながら文章を読解する時間、量を徐々に増やしていく。</p> <p>漢文の基本構造・漢文訓読の基本・</p> <p>句形・句法の習得</p> <p>○中等部で学習した訓読方法に加え、必要な句形（再読文字・使役・受身など）の基本を身に付ける。</p> <p>○詩歌・文学的文章 <ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章の読解を通して、時代背景・思想・心情理解につなげる。 ・短詩形文学の学習を通して、修辞技法を契機としながら独特の表現世界の理解につなげる </p>

2. 指導計画＊「現代の国語」「言語文化」は教材を横断する場合がある

教科	科目	単位数	対象学年
地歴歴史	地理総合	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	社会的事象の本質を見極めることのできる力をつけるために、多面的な知識を活用していくことを主眼において授業を展開する。そのためには社会（身の回り、社会で起こっていること）に興味を持ち、自分からグローバル社会に飛び込んでいく姿勢が必要となる。
使用教科書	新地理総合（帝国書院）、新詳高等地图初訂版(帝国書院)
使用副教材	新詳地理資料（帝国書院）、サクシード地理(啓隆社)
評価基準	社会事象への関心・意欲・態度／社会的な思考・判断／資料活用の技能・表現／社会的事象についての知識・理解 それぞれの項目に関して、授業・定期考查・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<ul style="list-style-type: none">●第1部 地図でとらえる現代世界<ul style="list-style-type: none">第1章 地図と地理情報システム第2章 結び付きを深める現代世界●第2部 国際理解と国際協力<ul style="list-style-type: none">第1章 生活文化の多様性と国際理解第2章 地球的課題と国際協力●第3部 持続可能な地域づくりと私たち<ul style="list-style-type: none">第1章 自然環境と防災第2章 生活圏の調査と地域の展望

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
地理歴史	歴史総合	2	4

1. 学習の到達目標等

到達目標	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を考察、構想する力を養う。
目標を達成するための留意点	年表、地図その他の資料の活用を通して世界の歴史の理解を図り、思考力・判断力・表現力等の育成を育んでいく。また世界の歴史の理解を踏まえて、現代の課題を政治・経済・社会・文化・生活・宗教など様々な観点から考察できる力を育んでいく。世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し、自己の属する国や地域の理解の上に、国際社会で主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質、態度を養う。
使用教科書	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）
使用副教材	現代の歴史総合みる・読みとく・考えるノート（山川出版社）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>第Ⅰ部 近代化と私たち</p> <p>第1章 結びつく世界と日本の開国</p> <p>1 18世紀の東アジアにおける社会と経済 2 貿易が結んだ世界と日本 3 産業革命 4 中国の開港と日本の開国</p> <p>第2章 国民国家と明治維新</p> <p>1 市民革命 2 国民国家とナショナリズム 3 明治維新 4 日本の産業革命 5 帝国主義 6 変容する東アジアの国際秩序 7 日露戦争と東アジアの変動</p> <p>第Ⅱ部 國際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>第3章 総力戦と社会運動</p> <p>1 第一次世界大戦の展開 2 ソヴィエト連邦とアメリカ合衆国の台頭 3 ベルサイユ体制とワシントン体制 4 世界経済の変容と日本 5 アジアのナショナリズム 6 大衆の政治参加 7 消費社会と大衆文化</p> <p>第4章 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>1 世界恐慌の時代 2 ファシズムの伸長と共産主義 3 日中戦争への道 4 第二次世界大戦の展開 5 第二次世界大戦下の社会 6 國際連合と国際経済体制 7 占領と戦後革命 8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 9 日本の独立と日米安全保障条約</p> <p>第Ⅲ部 グローバル化と私たち</p> <p>第5章 冷戦と世界経済</p> <p>1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 2 東西両陣営の動向と1960年代の社会 3 軍拡競争から緊張緩和へ 4 地域連携の形成と展開 5 計画経済とその波及 6 日本の高度経済成長 7 アジアのなかの戦後日本</p> <p>第6章 世界秩序の変容と日本</p> <p>1 石油危機 2 アジア諸地域の経済発展 3 市場開放と経済の自由化</p>

	4 情報技術革命とグローバリゼーション	5 冷戦の終結とソ連の崩壊
	6 現代の東アジア	7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化
	8 地域統合の拡大と変容	9 地域紛争と国際社会
	10 現代と私たち	

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ⅰ+数学Ⅱ	4(1+3)	4年生

1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図形の計量」の内容を習熟させるとともに、既習事項を空間図形の様々な計量に適所で利用できるようにする。 ・統計の基本的な考え方を理解するとともに、データの分析を通じて全体の傾向を把握できるようとする。 ・「数学Ⅰ 数と式」の内容を発展させ、より高度な数式処理技能を習熟させる。 ・図形を方程式で表し、図形の性質を調べる方法を学ぶことにより、数学の多様な考え方を理解させる。 ・三角関数、指数関数、対数関数など様々な関数の存在を知り、関数についての理解を深める。 ・多項式関数を対象に、微分法の基本的な概念を理解させる。
目標達成のための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の復習を中心とした家庭学習を定着させるための「適切な課題と点検」を計画的・意図的に行うこと。 ・生徒の主体的な学習を促すため、AL型授業の活用など生徒集団の資質に応じた授業展開を工夫すること。
教科書	数学Ⅰ(数研出版)、数学Ⅱ(数研出版)
副教材	4STEP数学Ⅰ 完成ノート(数研出版)、4STEP数学Ⅱ 完成ノート(数研出版)
評価方法	定期考查、小テスト、提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また、課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し、総合的に評価する。
学習内容	<p>[数学Ⅰ]</p> <p>第3章 図形の計量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな図形について、辺、角、面積、体積などの計量や面積比・体積比について学ぶ。 <p>第4章 データの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。特に、データの散らばり、相関関係について学ぶ。
	<p>[数学Ⅱ]</p> <p>第1章 式と証明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整式の除法、分数式の計算、等式・不等式の証明について学ぶ。 <p>第2章 複素数と方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲を複素数まで拡張し、2次方程式の判別式の意味や解と係数の関係について学ぶ。 <p>第3章 図形と方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座標・方程式を用いて基本的な平面図形の性質や関係を考察する。特に、点と直線の距離、直線・円の位置関係や方程式、軌跡と領域について学ぶ。

	<p>第4章 三角関数</p> <ul style="list-style-type: none">・角の拡張により三角関数を定義し、関数についての理解を深める。また、三角関数の加法定理と、それから導かれる種々の定理について学ぶ。
	<p>第5章 指数関数・対数関数</p> <ul style="list-style-type: none">・指数の拡張により指数関数および対数関数を定義し、関数についての理解を深める。また、指数関数・対数関数を具体的な事象の考察に活用することを学ぶ。
	<p>第6章 微分と積分</p> <ul style="list-style-type: none">・「微分法」では微分係数・導関数の意味を理解し、接線の方程式や関数の変化の調べ方を学び、グラフの概形が描けるようにする。

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学 B	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ベクトル」の学習では、その演算の習得・習熟と図形問題への応用を理解することにより、他の単元との関連性・差異性・有用性に気づかせる。 ・「数列」の学習では、素朴な個数処理、規則性の発見からはじめ、より数学的な考察、論理性、表現力を伸ばす。 ・「統計的な推測」では、確率変数と期待値などの考え方を学び、そのような確率論の方法を生かして現実の調査で得られるデータからその意味を見出す考え方を身に付ける。 ・校外模擬模試で偏差値 60 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	<p>「数学 A」と同様に、どの単元も、素朴な知識の活用から始めることが可能、その活動をより主体的な学習に導くことで、数学的な考察・論理性・表現力の大切さに気づかせることができること。したがって、授業も、生徒が主体的に考え、活動できるように工夫する必要がある。</p>
教科書	数学 B(数研出版)
副教材	4step 数学 A 完成ノート(数研出版) 4step 数学 B 完成ノート(数研出版)
評価方法	<p>定期考査、小テスト、提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また、課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し、総合的に評価する。</p>
授業内容	<p>第 1・2 章ベクトル 平面・空間上でのベクトルの意味、ベクトルの加法・減法・実数倍、ベクトルの成分や内積、位置ベクトル、図形のベクトル方程式について学び、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて考察する。</p> <p>第 3 章 数列 数列とその和、および漸化式と数学的帰納法について学ぶ。</p> <p>第4章 統計的な推測 確率変数とその分布、標本調査、統計的な推測を学ぶことで、不確定な事象の考察をする。</p>

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
理科	物理基礎	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
目標を達成するための留意点	<p>学習のアドバイス等</p> <p>1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。</p> <p>2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。</p> <p>3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。</p>
使用教科書	「新編 物理基礎」(数研出版)
使用副教材	「リードα 物理基礎」(数研出版)
評価基準	<p>●下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。</p> <p>(1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、物理への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に関心・意欲・態度の項目を評価する。</p> <p>(2)ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。</p> <p>(3)観察・実験等 観察・実験等を行い、レポートを書く。観察・実験に対する姿勢、予想や考察、器具の操作、報告書などから評価する。評価の観点のうち、思考・判断、観察・実験の技能・表現に関する配分が大きい。</p> <p>(4)教科書・問題集の問題 各問題への取り組み、取り組んだ内容から評価する。</p> <p>(5)中間・定期考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、思考・判断、知識・理解に関する配分がもっとも大きい。</p>
学習内容	<p>第1部「運動とエネルギー」 第2部「熱」 第3部「波」</p> <p>様々な物理現象を観察、実験などを通して探究し、それらの基本的な概念や法則を理解し、物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につける。</p>

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
理科	化学基礎	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造と電子配置を理解する。 3. 物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。 4. 酸と塩基の反応および酸化還元反応の基本的な概念や法則を理解できる。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 化学基礎」(東京書籍) 「改訂 化学」(東京書籍)
使用副教材	「ニューグローバル 化学基礎」(東京書籍) 「フォトサイエンス 化学図録」(数研出版)
評価基準	* 主体的に学習に取り組む態度 * 思考・判断・表現 * 知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	化学基礎 第2編：物質の変化 2章：酸と塩基 3章：酸化還元反応 化学 第1編：物質の状態と平衡 1章：物質の状態 2章：気体の性質

2. 指導計画

	4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
物質の変化	物質量と化学反応式			1		1				2		2				学年 末考 査	
	酸と塩基			学		学				学		学					
	酸化還元反応			期		期		期		期		期					
物質の状態と平衡	物質の状態			中		中		中		中		中		中		学年 末考 査	
	気体の性質			間		間		間		間		間		間			
	溶液の性質			考		考		考		考		考		考			
	固体の構造			査													

教科	科目	単位数	対象学年
理科	生物基礎	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「改訂 生物基礎」(東京書籍)
使用副教材	「リードα 生物基礎」(数研出版)
評価基準	行動観察、発言、発表、自己評価、レポート、ワークシート・小テスト・定期テストなど
学習内容	グループ型学習で授業を進め、教師の授業に加え生徒同士の教えあいにより生物の基礎知識の定着を行い、グループ全員が理解することを共通目標にした教えあいを通じてクラス全体で教えあう意識を高め、問題読解力の向上と理解の深化をはかる。

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	3	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>多様な題材に触れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを正確に理解し、それが前提としていることや背景にあることを推論する。 ・その内容について深く理解する。 ・題材をもとに、「聞く、読む、話す、書く」の4技能を有機的に関連付けつつ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・英語は継続して取り組むことで成果へつながるので、課題も含め、毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 ・受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	Element English Communication I 、Revised Element English Communication II (啓林館)
使用副教材	<p>システム英単語 (駿台文庫) リーディングパワー (数研出版) Hyper Listening Elementary (桐原) Revised ELEMENT II ワークブック Standard (啓林館) 入門英語長文問題精講 3訂版 (旺文社) ※医進・選抜コースのみ</p>
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションへの関心、意欲、態度 2. 表現能力(Speaking, Writing) 3. 理解能力(Listening, Reading) 4. 言語や異文化についての知識、理解 <p>上記の4つの観点と定期考查、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。</p>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活・学校生活、ネット情報社会、言語と民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や芸術・音楽、社会貢献、歴史、人間としての生き方など多様な話題の文章を読み解き、内容に興味を持ち、考える。 ・スピーチ、インタビュー、プレゼンテーション、レポート、レクチャー、対話文、説明文、物語といった多様な種類の文章の特徴に注目し、それらの表現方法を学ぶ。 ・上記の題材を読んだり聞いたりして理解し、考えた内容を書いたり話したりして発信することによって、4技能を統合する。 ・大学受験に耐えうる長文読解力(速読、精読)を養う。

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
英語	論理・表現 I	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うことを目指す 英語によるコミュニケーション力の育成を目指して、生徒の英語による言語活動の機会を十分に設ける。コミュニケーションのできる英語を目標に会話だけにとどまらない4技能の基礎作りの場とする。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> 英語は継続して取り組むことで成果へつながるので、課題も含め、毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 受験にも対応できる力を養成する。
使用教科書	FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原)
使用副教材	FACTBOOK 総合英語(桐原) スタディサプリ English (リクルート)
評価基準	<ol style="list-style-type: none"> コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現能力 (Speaking Writing) 理解能力 (Listening, Reading) 言語や文化についての知識・理解 <p>上記の4つの観点と定期考査、課題提出、確認テスト、授業に参加する姿勢などを基にして総合的に評価する。</p>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 中学の復習から入って徐々に発展的なものへと考慮し、無理なく英語の基礎力を養う。 品詞、動詞の活用、短縮形、名詞の複数形、数詞、国名、発音記号などまで学ぶ。 練習問題を通じて問題への対応力から英作文までの応用力を身に付ける。 受験対策としての文法知識の習得のための時間の確保や課題の授与も行う。 各課の仕上げとして習った表現を使った口頭による会話練習やスピーチの練習までを行う。

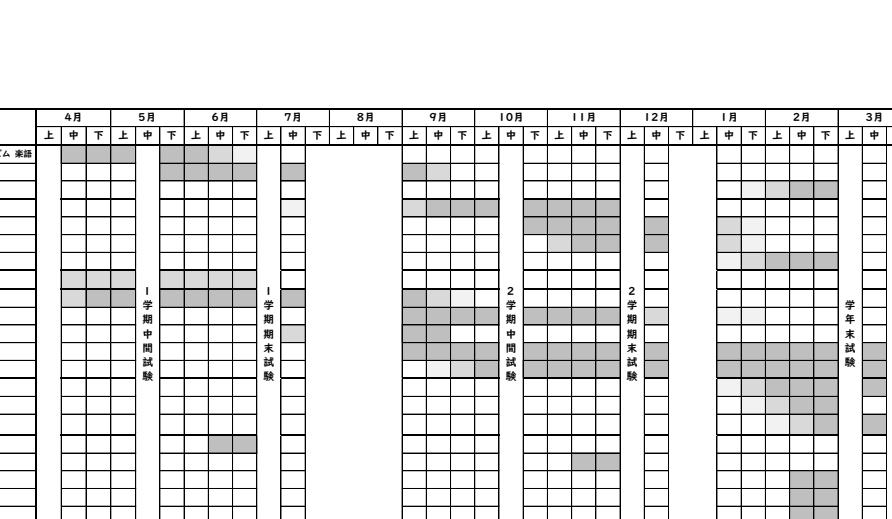
2. 指導計画

学年	科目	単元	内容	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
4年	論理・表現 I	Unit 0	Get to know more about your classmates																																				
		Unit 1	Smart home, smart city																																				
		Unit 2	History and future of our town																																				
		Unit 3	Preparing for a natural disaster																																				
		Unit 4	Water supporting our lives																																				
		Unit 5	Save food you can still eat!																																				
		Unit 6	How can we become more health-conscious?																																				
		Unit 7	How many clothes do you buy?																																				
		Unit 8	How do you decide which products to buy?																																				
		Unit 9	A variety of ways to improve English																																				
		Unit 10	How can we become foreigner-friendly?																																				

授業科目	芸術 音楽 I								令和4年度 芸術科シラバス																	
履修 学年	4年		(選択)			単位数		2																		
授業内容	主に音楽理論の学習とバンド編成による楽曲の演奏活動を通して、音楽的感性を深め、演奏の基本手法を実習すると共に、主体的かつ創造的な芸術的表現を行う。 1学期 音楽理論(楽典)と実習 視唱 基本奏法の練習 2学期 基本奏法の練習と合奏・声楽パートの練習及び弾き歌い。発展的な音楽理論の学習 3学期 発展的合奏表現と作曲 ただし、日本音楽史・西洋音楽史については年間を通して適宜行う。																									
到達目標	○基本的楽典の理解。調性音楽の原理理解。借用和音と転調の理解。 ○メンバーの志向等を共有・共感しながら演奏課題曲の選定と担当楽器の設定を行う ○各楽器の基本奏法の理解と演奏。コード・ネームに関連した楽典の理解と連携。 ○各楽器に関連した機材等の効果および操作理解 ○個人練習・合奏練習のメニュー理解と稽古実施 ○声楽的観点による歌唱表現の工夫 ○弾き歌いを中心とした楽曲の解釈と理解 ○音楽における様々な様式と歴史の理解および応用																									
評価方法	[単位修得要件] 出席日数、授業参加練習態度、持ち物(楽譜など)、順番で行うレッスン等の評価、学期ごとの学科(筆記)試験、同学年末の演奏実演。以上を加味しながらこれらを「知識・技能」40%「主体性」30%「表現力・判断力・思考力」30%の観点別で評価を決定する。																									
使用教材	教育芸術社 MOUSA I 及び 各グループ毎の課題曲楽譜 資料プリント等																									
その他	[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 小・中学校で培われた音楽的演奏能力および音楽的知識一般。ただし楽器演奏の経験および能力は特に問わない。 [注意事項] この授業は主体的な音楽表現を試みる事を目的としている。そのため音楽理論の専門的な知識の理解や、初めて演奏する事になる楽器の演奏などについて、指定された課題を丁寧に練習していくことが求められる。これらの総体として音楽的表現の可能性を実体験し追求して欲しい。																									

●授業進度表

学年	科目	単元	項目	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
4年	音楽	楽典	音部記号 音名 音符と休符 小節と拍子とリズム 楽語																																				
			音階と調																																				
		機能和声の論理	音階から和音(コードネーム含む)																																				
			カデンツ																																				
			準固有和音																																				
			副主の和音・転調																																				
		ソルフェージュ	視唱																																				
		器楽演奏と弾き歌い	各楽器の基本奏法																																				
			発展的な奏法																																				
			合奏時の機材使用法と留意点																																				
			合奏練習																																				
			弾き歌い																																				
		表現とパフォーマンス	作曲																																				
			曲の表現プラン																																				
			舞台芸術としての観点とその理解																																				
		日本音楽史	古墳時代 奈良時代 平安時代																																				
			鎌倉時代 安土桃山時代 江戸時代																																				
			明治時代 昭和初期																																				
			現代																																				
			郷土の民族と芸能																																				



教科	科目	単位数	対象学年
芸術	美術 I	2	4 年

1. 学習の到達目標等

到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
目標を達成するための留意点	<p>* 学習上の注意・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を大切にし、ねばり強く集中し、試行錯誤し、制作に取り組む。 提出物の提出期限は必ずまもる。 準備や後片付けをきちんと行う。(忘れ物をしない) 計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 作品について良さや美しさ、感じたことをじっくり話し合う。 年3回の定期テストもしっかりと準備して臨む。
使用教科書	美術1（光村図書出版）
使用副教材	プリント教材
評価基準	<p>[知識・技能] ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</p> <p>・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。→ 作品・定期テストなどで評価します。</p> <p>[思考・判断・表現] 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。→ 授業プリント・ワークシート・定期テストなどで評価します。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。</p>
学習内容	高校美術オリエンテーション、身近なものを描く、初めての油彩画（自分の自宅を装飾するテーマ）、絵具の特徴を知る、コラージュボックス（超現実主義やダダイスムから学ぶ）、近・現代の美術と歴史の関わり、最終自由制作（彫刻か油彩画）

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
芸術	書道 I	2	4 年

1. 学習の到達目標等

到達目標	漢字の書、仮名の書の臨書を通じ、実用書道に生かし、生涯にわたり日本文化を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
目標を達成するための留意点	<p>用具・用材の特徴を理解し、道具や作品を丁寧に扱う。</p> <p>自分や他人の作品を大切にし、集中して稽古に励む。</p> <p>準備や後片づけをきちんとやる。(忘れ物をしない)</p> <p>最後まであきらめずに、手本と向き合い、困難を乗り越え、作品制作をやり遂げることを大事にしたい。</p> <p>目的や用途に即した形式や意図に基づく、全体構成を工夫させる。</p>
使用教科書	書I（光村図書）
使用副教材	資料・プリント教材等
評価基準	<p>① 知識・技能：多方面から文字を分析的に捉え、技法を習得し、書道文化を理解している。 →作品・授業プリント・定期テストで評価。</p> <p>② 思考・判断・表現：感性や想像力を働かせて、よさや美しさを感じ取り、意図に応じて表現方法などを創意工夫している。→作品・授業プリント・定期テストで評価。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度：主体的に技法の習得、鑑賞の学習に取り組もうとする。→出席時数・課題への取り組み方・学習態度・作品・準備物・提出物・共有物を大切に扱う（後片付け）などで評価。</p>
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 書写と書道の違いを理解する。姿勢・執筆法、用具・用材を理解する。 文字や書の歴史を知る。 古典作品の鑑賞・理論を通し、臨書（実技）をする。 平仮名、片仮名の成り立ちを理解し、平安時代の仮名の基礎を学ぶ。 日常生活における実用的な書を学ぶ。

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
情報	社会と情報	1	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集・処理・表現させる。 3. コミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 4. プログラミングを通じ、論理的思考能力を育てる。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本技能の修得だけでなく、情報社会における個人のモラルについても留意させる。 身近なコミュニケーションツールの例など挙げて理解を促す。
使用教科書	高校社会と情報 新訂版(実教出版)
使用副教材	必要に応じて作成・配布
評価基準	知識・技能（40%）、思考・判断・表現（30%）、主体的に学習に取り組む態度（30%） 各学期の期末試験、実技課題、提出物や授業に取り組む姿勢等を総合的に判断して評価する。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 様々なコミュニケーションの方法や留意点について学ぶ。 ネットワーク、インターネットの仕組みについて学ぶ。 インターネットを利用したサービスやその特徴について学ぶ。 デジタル情報の表現方法やその特徴について学ぶ。 静止画像、動画等のデジタル化について学ぶ。 圧縮の種類や仕組みについて学ぶ。 デジタル化におけるさまざま計算方法を学び、その仕組みについて理解を深める。 表計算ソフト（関数）を活用してデータを処理し、情報を分析する方法を学ぶ。 プログラミングの仕組みを理解し、アルゴリズムを表現する手段を学ぶ。

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	体育	2	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	各種の運動の合理的な実践をとおして、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動することのできる資質や能力を身につける。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各運動の基本的技能を身につける。 年間を通じての基礎トレーニングにより、体力の向上を図る。 規律規範を守る。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育 ノート（大修館）、最新スポーツルール（大修館）
評価基準	<p>【知識及び技能】 運動の合理的な実践を通して、各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。また、運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら運動しようとする。</p> <p>以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断します。</p>
学習内容	<p>下記の 2. 指導計画参照。</p> <p>【体育理論】運動やスポーツの効果的な学習の仕方</p>

2. 指導計画

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	保健	1	4年

1. 学習の到達目標等

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、生涯において健康を管理し、実践していくための発展的学習内容を身につける。
目標を達成するための留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の健康課題についての理解を深める。 生涯を通じての健康に対して、また社会生活と健康との関わりについての理解を深める。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育 ノート（大修館）
評価基準	<p>【知識及び技能】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> <p>上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。</p>
学習内容	3.生涯に通じる健康（ライフステージと健康～健康的な職業選択） 4.健康を支える環境づくり（大気汚染と健康～健康に関する環境づくりと社会生活）

2. 指導計画